

【2018年7月新着図書案内】

情報コーナーに新しい図書が24冊入りました！

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『更年期女性の心的世界 —「枯れない心」に寄り添う』	西尾ゆう子著	誠信書房	2018年	143.7ニ オレンジ	「女性の老い」に焦点を当て、筆者が会った60代から90代の女性約60人のことばから、更年期女性の心の世界を探求し、心の援助のあり方について述べる。
『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア 自分を愛する力を取り戻す[心理教育]の本』	白川美也子著	アスク・ ヒューマン・ ケア	2016年	146.1シ オレンジ	赤ずきんとオオカミによる物語仕立てで、トラウマ記憶のしくみ、回復のプロセスなどを学ぶとともに、トラウマを受けた人と関わるスタッフのために、支援の原則や症状への対応などについても解説する。
『わたしを生きる知恵 80歳のフェミニストカウンセラーから あなたへ』	河野貴代美著	三一書房	2018年	146.8カ オレンジ	フェミニストカウンセリングの歴史を振り返り、それがどういうものかを紹介する。フェミニストカウンセラーとして長く活動した著者からの「ゆっくりでいいから、あなた自身を生きなさい」というメッセージ。
『家族仕事(しごとよりもかぞく)で生きる。』	赤城夫婦著	SB クリエイティブ	2017年	159.4ア キイロ	「自分や家族の大事なことを優先させると、仕事もうまくって豊かな人生になる。結果的に何も犠牲にせずすべて手に入る」という著者が、そのコツを伝授する。
『“ときめかない”ことなら、やめちゃえば？ ニューヨークの女性の「自分らしく」生きる 考え方』	サラ・ナイト著 上野陽子訳	秀和システム	2017年	159.6サ キイロ	いろいろなことを背負い込みゆとりがない、本当に自分を幸せにしてくれる人や物事に捧げる時間があまりに少ないとため息をついている人のために書かれた「気にしない法則」とは。
『問いからはじめる家族社会学 —多様化する家族の包摂に向けて』	岩間暁子、大和礼子、 田間泰子著	有斐閣	2015年	361.6イ アカ	家族の変化や多様化の実態をデータを基に解説することに加え、個人や家族を取り囲む制度や政策、社会全体のありようなどを展望する際に助けとなる知識や概念、考え方などをわかりやすく伝える。
『新・正社員論 共稼ぎ正社員モデルの提言』	久本憲夫著	中央経済社	2018年	366.2ヒ ミズイロ	男女の雇用平等を前提とし、少子化を防ぐために、雇用の場において社会的に何が必要かということ、その解決策は現状を踏まえて実現可能なのかどうかということを明らかにする。
『パワハラ・セクハラ・マタハラ相談は こうして話を聴く —こじらせない！職場ハラスメントの対処法』	野原蓉子著	経団連出版	2017年	366.3ノ ミズイロ	パワハラ・セクハラ・マタハラといったハラスメント被害者から相談があったときに、職場や相談窓口がどのように対応したらいいのかを、わかりやすく紹介する。
『働く女の腹の底 多様化する生き方・考え方』	博報堂キャリアジョ研著	光文社	2018年	366.3ハ ミズイロ	「キャリア(職業)を持つ、特にお金と時間を自分のために使いやすい子どものない女性」=通称「キャリアジョ」が何を考え、どう生きているのかを分析し、多様な女性たちのリアルに迫る。

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『非典型化する家族と女性のキャリア JILPT第3期プロジェクト 研究シリーズNo. 9』	(独)労働政策研究・ 研修機構編	(独)労働政策 研究・研修 機構	2018年	366.3□ ミズイ□	女性の管理職昇進問題が話題となる一方で、低賃金・不安定雇用の職につく女性の状況は変化していない。女性労働をめぐる問題を多角的に取り上げ、女性のライフスタイルの多様化に対応した労働政策の課題を明らかにする。
『はじめてのジェンダー論』	加藤秀一著	有斐閣	2017年	367.1カ ミドリ	いまだに不当な性差別や性暴力がはびこる現代社会において、何が問題で、解決には何が 필요한のか。ジェンダー論が取り組むべき問題を考える入門書。
『世界を変えるのは、あなた 国連・女性・NGO Part II』	国連NGO 国内女性委員会編	パド・ ウィメンズ・ オフィス	2017年	367.1コ ミドリ	女性の生活につながる条約・宣言や女性問題に関する国連機関、国連を舞台に活躍した女性たちなど、国連と女性問題の関わりを探る手引書。
『ジェンダーとわたし —〈違和感〉から社会を読み解く—』	笹川あゆみ編著	北樹出版	2017年	367.1サ ミドリ	社会のいたるところにまだ存在するジェンダーにまつわる差別意識や偏見。ちょっとしたきっかけで違和感を覚えた時、どうしてそう感じたのか、どう立ち向かえばよいのか、いろいろ考えるための助けとなる一冊。
『女性学入門[改訂版] —ジェンダーで社会と人生を考える—』	杉本貴代栄編著	ミネルヴァ書房	2018年	367.1ス ミドリ	女性学とは、フェミニズムの視点から従来の学問を再検討しようという試みのこと。ジェンダーに関わる多領域をカバーし、女性の人生の節目を取り上げ、最新の法律等の情報を盛り込んだ改訂版。
『日本のフェミニズム since1886性の戦い編』	北原みのり責任編集	河出書房新社	2017年	367.2キ ミドリ	性の尊厳とは何か。なぜ私たちはそれを必要とするのか。どのような運動が行われてきたのか。性の戦いを繰り広げた女性たちの歴史を記述し、現在進行形で戦っている女性たちが自らの考えを語る。
『産まないことは「逃げ」ですか？』	吉田潮著	KK ベストセラーズ	2017年	367.2ヨ ミドリ	産んでも、産まなくても、これでよかったと思える人生のために、コラムニストが書き下ろした、自分が主語の人生を楽しむためのヒント。
『「子どもの貧困」を問いなおす —家族・ジェンダーの視点から』	松本伊智朗編	法律文化社	2017年	367.6マ ギン	子どもの貧困を生み出す構造のなかに家族という仕組みを位置づけ、そこに女性が負ってきた社会的不利がどのように埋め込まれてきたのかを明らかにし、貧困を問いなおす。
『もし明日、親が倒れても仕事を辞めずに すむ方法』	川内潤著	ポプラ社	2018年	369.2カ ピンク	「自分の仕事と、親孝行としての介護を、天秤にかけないこと。介護のために仕事を辞めないこと」。実際にどうすればそれを実現できるのかを伝えるとともに、介護を通じて、親のこと、家族のことをあらためて考えさせる一冊。
『その介護離職、おまちなさい』	樋口恵子著	潮出版社	2017年	369.2ヒ ピンク	仕事をし、生活を楽しみ、人々とつきあひながら介護に取り組む。また、国や自治体、企業も含めて介護者を孤立させず、ともに介護を考えていく。そんな、〈ながら〉介護、〈トモニ〉介護のすすめ。
『ルポ 保健室 子どもの貧困・虐待・性のリアル』	秋山千佳著	朝日新聞出版	2016年	374.9ア ギン	貧困や虐待、いじめなどのさまざまな問題を抱えた子どもたちが集まってくる学校の保健室。その場所で起きている大きな変化から、現代の子どもたちが強いられた困難の本質を探るルポルタージュ。

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『料理は女の義務ですか』	阿古真理著	新潮社	2017年	383.8ア ミドリ	人はなぜ料理をするのか、料理への苦手意識をどうすれば克服できるのか。「楽しい保存食」「便利な常備菜」といった先人の知恵を学ぶとともに、女性の社会進出と現代の台所事情、料理がつなく人間関係などを考える料理論。
『ドリーム NASAを支えた名もなき計算手たち』	マーゴット・リー・ シェタリー著 山北めぐみ訳	ハーパー コリンズ・ ジャパン	2017年	538.9マ ミズイロ	コンピューターの誕生前夜、複雑な計算を担った計算手(コンピューター)と呼ばれた人たち。人種隔離政策下のアメリカで、差別を超え、宇宙開発の礎となり、アポロ計画の扉を開いた“黒人女性計算手”たちの姿を描く。
『ススメ⇒共働家(ともばたけ)』	ぼに著	メディアソフト	2018年	590.4ポ キイロ	「家事も育児も仕事も、全部やってもいいじゃない!」。夫婦共に技術職、お互いの実家は遠方の完全核家族という環境で育児中のワーキングマザーが綴る、葛藤とシアワセの日々。
『マンガ 育児ことわざ』	あかまる、安彦麻理絵、 上田倫子、うめ、加藤 マユミ、他著	実業之日本社	2017年	599.4マ キイロ	育児経験のある漫画家31名が、“子育てあるある”をことわざ風に描き下ろしたコミックエッセイ。

